

# 月報 シオン山

2022年8月7日発行 (No383)

\*\*\*\*\*

## 日本バプテストシオン山教会

☎803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel(093)561-0772 Fax(093)561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

\*\*\*\*\*

### 【月間聖句】

すべての人との平和を、また聖なる生活を  
追い求めなさい。聖なる生活を抜きにして、  
だれも主を見ることはできません。

(ヘブライ人への手紙12章14節)

シオン山教会創立100周年の8月を考える

大里克夫

8月は、平和を守る月として、毎年平和の課題がとりあげられてきた。1945年8月6日広島にウラン型の原子爆弾が投下され、8月9日には長崎にプルトニウム型の原子爆弾が投下された。広島では約14万人(1945年12月末)が亡くなり、長崎では昭和20年だけで7万人以上が亡くなり、2014年の集計では16万5,409人が亡くなっている。最期の1人まで戦うと豪語していた軍・政府は8月15日に天皇の玉音放送でポツダム宣言を受託したことを国民に告げた。無条件降伏という最も惨めな形で戦争を終結させたのである。長崎に投下された原子爆弾は、当初小倉が第一目標だったということが明らかになった。

沖縄は日本本土を守るための「捨て石」とされた。中学生、女学生も戦闘員として狩り出され、一般住民も戦闘に巻き込まれた。激しい爆撃と艦砲射撃で多くの住民が死んだ。6月22日に第32軍司令部の牛島満司令官らが自決し日本軍の組織的な抵抗は終わったが、この戦闘で、約20万人余りが亡くなった。沖縄県民の犠牲者は約12万2000人であった、朝鮮半島から連れてこられた人々も300人以上が亡くなった。軍人軍属よりも一般住民の犠牲者が上回ったことが沖縄戦の特徴といえる。

今、ロシアがウクライナに侵攻し悲惨な戦闘が続いている。ロシア軍の無差別攻撃で、一般市民にも多くの犠牲者が出ている。EUやアメリカなど自由主義国からは、武器や義勇兵などがウクライナに送り込まれ泥沼状態である。

第2次世界大戦に敗れた日本は、恒久平和を願う憲法を作り軍備を放棄した。ところが実際には、警察予備隊が自衛隊と名前を変え実質的には、軍備は拡充されてきた。そして今、世界情勢の緊迫に乗じて憲法を改定し軍備を更に拡充しようとする画策が見えている。

旧満洲に於いてソ連（現ロシア）の支配下で虐殺・略奪の恐ろしさを体験した私だが、政府の軍備拡充の政策には戸惑いを覚える。戦争を知らない世代が多くなった。戦争を美化し軍備拡充を是とする国民が多くなった。戦乱の中で過ごした私たち昭和の1桁世代は、平和共存の尊さを訴えなければならない。

戦時中のキリスト教会弾圧を乗り越え、イエス・キリストを主とするシオン山教会は、7月3日に、連盟から加藤誠理事長を迎えて創立100周年記念礼拝、記念式典を行った。コロナが猛威を振るう中で、消毒、密を避ける配置に気を使った。派手なパーティなどは出来なかったが、下川礼子夫妻の発案による「花プロジェクト」は、グリーンパークに勤めている西南女学院の卒業生、御園和穂さんの協力を得て、多くの教会員が力を出し合いシオン山教会を花で飾った。100年をクリアした日本バプテストシオン山教会は、次の100年に向けて新しくスタートを切った。祈りつつ前進しよう。